

討論

今定例会最終日に、次のような討論が行われました。

議案第53号

反対

【日本共産党】

10%になった消費税への依存が大きい。行財政改革が進むが黒字規模を見れば必要ない事業削減もあり福祉に冷たい姿勢

を浮き彫りにした。相談業務が充実したが市民の苦難は十分把握されていない。住宅改修補助は変化する生活に合わせ改善を。保健所など危機に対応できる職員体制が必要。コロナで子どもの人格形成の機会が失われた。必要なのはデジタル化ではなく教員を増やすこと。防災などで重要な地域活動も縮小し草刈り等も困難になってきている。大きな役割を担う高齢者が元氣

に活動できる条件整備を。困ったときに頼れる市政になるため職員が日々の言動を顧みてほしい。

の体制強化、感染拡大防止対策、市民生活や地域経済や教育活動への支援、ICT化推進など、多くの事業が行われた。

コロナ禍が続く中で、複雑で、きめ細やかな対応が求められた行政課題があったが、市長のリーダーシップと職員の尽力による的確な対応と成果を高く評価して、賛成の討論とする。

者が減少し、個人市民税が減少した。行財政改革推進計画が進められている。オリンピックの開催、感染予防や経済活動の支援を事業者や市民の協力と市職員の働きで実施できた。継続する課題に取り組みつつ、生活困窮や移動手段の確保、学校も含めた子育て支援を行い、人がつながら魅力あふれるまちの実現に期待し賛成討論とする。

歳入の特徴は、新型コロナウイルス感染症への取り組みの財源として約140億円が交付されたことであり、医療提供等

成も12回を数えた。

歳出規模も、昨年度に引き続き大きな決算規模となり、各種給付金や支援金、保健所体制の確保、ワクチン接種の実施、教育現場における二酸化炭素モニターの配備、プレミアム付商品券事業の実施など新型コロナウイルス感染症対策が行われた。

【無所属】

少子高齢化対応による民生費の増、公共施設や駅周辺整備、公債費の増により、歳出は増加傾向である。歳入は納税義務

成

市政に関する一般質問

今定例会では、26名の議員が一般質問を行いました。

問 会派名 議員氏名 質問の番
一般質問の表題 中継映像の2次元コード

答 答弁者 (質問の要約)

答 (答弁の要約)

問 通告事項の要約

まちづくりや暮らしに関する制度など、市の行政・財政全般にわたって、事業の現在の状況、今後の方針等について質問をし、必要に応じて市に對し意見や施策の提案をします。質問をした議員が、その質問の中から一問を選び、掲載していきます。



自由民主党 村山博紀 1
本市が重点を置く防災対策



自由民主党 牛窪喜史 2
川越市の自然災害への備え



問 頻発化、激甚化する自然災害に対するさらなる防災対策の強化が必要だ。寺尾地区をはじめ、全市民を守る市長が重点を置く防災対策の考えを伺う。

とから、水害ハザードマップを全戸配布するなど防災意識向上に向けた取り組みを進めてきた。

問 一つ発生するか分からない線状降水帯等の降雨に対して市はどのように対応するのか。

係部署が監視を行い、状況により体制を強化して対応している。

答 市長 防災対策についてはソフト対策、ハード対策共に重点を置く必要があると考えている。

ソフト対策としては、市民が適切な避難行動を取ることが重要であること

答 危機管理監 本市では地域防災計画に配備体制と配備基準を定めており、大雨、洪水等の気象警報発表により監視体制を施行し、情報収集、連絡活動を行うこととしている。

また警報発表前でも大雨が予測される場合は関

ソフト対策としては、市民が適切な避難行動を取ることが重要であること

問 寺尾と市の災害対策

問 川越市の諸課題

問 川越市のスポーツ振興